

- ① 新刊書の事前情報です。配本希望部数をご記入のうえ郵送またはFAXにてご連絡をお願い致します。
希望部数を優先して配本しておりますので、必ずお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書は注文扱いにて出荷させていただきますのでご了承下さい。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸いです。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。併せてご利用下さい。

帖合・番線	部数	法政大学出版局 2014年2月6日配本 定価3570円(本体3400円+税) ミリアム・グラックスマン 著／木本 喜美子 監訳 「労働」の社会分析 ISBN978-4-588-67517-1 C1036 ★ 織工として定取入を得る人から、洗濯や子守など彼女たちの家事を代行して稼ぐ人まで、戦間期にイギリスの女性の働き方は一気に多様化する。家庭内でも洗濯機や掃除機が導入され、家計の管理や家事を夫と分担する人も現れて、主婦以外のアイデンティティを持つ女性が登場した。理論と実証研究の統合を目指した意欲的なオーラル・ヒストリー。 【社会学・女性労働】 ☞ 関連書:R.コーワン『お母さんは忙しくなるばかり』、C.T.モーハンティ『境界なきフェミニズム』(いずれも小局刊)。	A5判並製・324頁
帖合・番線	部数	法政大学出版局 2014年2月10日配本 予価26250円(本体25000円+税) A5判上製・貼箱装・1046頁 野沢 協 編訳 寛容論争集成・下 ISBN978-4-588-12030-5 C1310 ペール周辺の寛容をめぐる政治・神学論争を集成する本書下巻には、ジュリユール、ジャクロ、フィリポ、ソラン、バルベラックらの文書を取める。巻末にはこれら著者・思想家たちの人物紹介に加え、フランク・ビュオーによる解説書『十七世紀における「寛容」のフランス人先駆者たち』を併録し、ひとつの時代の思想的全体像を浮かび上がらせる。野沢協氏のライフワーク、17世紀思想史の到達点。 【哲学・思想】 ☞ 関連書:『ピエール・ペール関連資料集2 寛容論争集成・上』も好評既刊。両巻で完結、全2062ページ。	A5判上製・貼箱装・1046頁 《ピエール・ペール関連資料集2》
帖合・番線	部数	法政大学出版局 2014年2月10日配本 予価4200円(本体4000円+税) 四六判上製・358頁 山下 麻衣 編著 歴史のなかの障害者 ISBN978-4-588-60334-1 C1320 ★★ 障害者とはどのような主体であるのか。何が障害なのか。歴史的な障害生成のプロセスと社会的背景、さらに、障害を持つといわれる人々に対する認識はどのようなものなのだろうか。本書は、日本、ドイツ、イギリスを対象に、学校、職場、病院、社会事業などにおける障害者の生活の歴史をひも解き、具体的かつ多面的に描きだすことで、現代社会が抱える《共生》の問題を考える。 【歴史・比較史】 ☞ 関連書:川越・鈴木編『分別される生命』、川越・辻編『社会国家を生きる』(いずれも小局刊)。	四六判上製・358頁 《サピエンティア34》
帖合・番線	部数	法政大学出版局 2014年2月24日配本 予価3360円(本体3200円+税) 四六判上製・276頁 ジャン・ナベール 著／杉村 靖彦 訳 悪についての試論 ISBN978-4-588-01007-1 C1310 ★ 「フランス反省哲学」の思想潮流を継承し、リクールに多大な影響をもたらした20世紀の知られざる哲学者ナベール。その主著である本書(1955年刊行)は、きわめて晦渋で屈折した文体ゆえ読者を限定する一方で、思想の歴史のなかでも唯一無二の緊張と潜勢力をはらんだ独自の「悪」論をなしている。訳者による周到で詳細な「ナベール入門」ともいふべき、充実の解説および注を付す。 【哲学・倫理】 ☞ 関連書:R.J.バーンスタイン『根源悪の系譜——カントからアーレントまで』(小局刊)。	四六判上製・276頁 《叢書・ユニベルシタス1007》
帖合・番線	部数	法政大学出版局 2014年2月25日配本 定価5880円(本体5600円+税) A5判上製・384頁 岡本 仁宏 編著 新しい政治主体像を求めて 市民社会・ナショナリズム・グローバリズム ISBN978-4-588-62525-1 C3031 近代政治理論では、「人間、国民、市民」という政治主体概念が継承されてきた。しかし、20世紀末から世界秩序が不安定性を増すなか、現状とのずれが生じ始めている。多彩な論者が「市民社会、ナショナリズム、グローバリズム」との関連で従来の概念を再検討し、今を生きる人びとの苦しみや惑いに答える政治学・理論の可能性を探る。 【政治哲学・政治理論】 ☞ 関連書:押村高『国家のパラドクス』、W.キムリッカ『土着語の政治』(いずれも小局刊)。	A5判上製・384頁
帖合・番線	部数	法政大学出版局 2014年2月28日配本 定価9975円(本体9500円+税) A5判上製・680頁 進藤 久美子 著 市川房枝と「大東亜戦争」 フェミニストは戦争をどう生きたか ISBN978-4-588-32704-9 C1023 戦前から婦選運動を牽引し、日本におけるジェンダー・ポリティックスの政治理念と政治様式の生みの親でもある市川房枝。その市川は、どのような軌跡を描いて非戦論の立場から戦争容認・協力へと転向していったのか。本書は、多くの未公開資料などを利用しつつ、「告発史観」の視座からではなく、同時代の社会状況のもとに市川の言説と活動を跡づけ、その戦時期活動の意味を再検証する。 【評伝・日本ジェンダー史】 ☞ 関連書:河西晃祐『帝国日本の拡張と崩壊』、阿部博行『石原莞爾』(いずれも小局刊)。	A5判上製・680頁

ご担当者様 氏名: [] 担当ジャンル: [] TEL: [] E-mail: []

- * 配本部数等で事前にご連絡する場合がございます。上覧にご担当者様氏名・TELをご記入下さい。
* 宛名ラベルの内容に変更がございましたらお知らせ下さい。次回以降訂正致します。
* 今後、新刊内容のデータ等をeメールにて配信させて頂く場合がございます。よろしければメールアドレスをご記入下さい。